

平成 27 年度「県と市町の地域づくり連携・協働協議会」(地域会議)

1 対 1 対 談 (玉城町) 会議録

1. 対談時間

平成 27 年 11 月 1 日 (日) 16 時 00 分～17 時 00 分

2. 対談場所

玉城町健康福社会館 ふれあいホール (玉城町勝田 4876-1)

3. 対談市町名

玉城町 (玉城町長 辻村 修一)

4. 対談項目

- (1) 子どもたちの新しい豊かさ協創について
- (2) 若者の流出防止および UIJ ターンについて

5. 会議録

(1) あいさつ

知 事

皆さんこんにちは。今日は日曜日にもかかわらず町長をはじめ町の関係者の皆さん、そして町民の皆さん、このようにたくさんお集まりをいただき 1 対 1 対談を開催させていただきますことを感謝申し上げます。また、元々は 7 月 17 日を予定していたわけでありまして、台風の関係で延期をさせていただきます、日程調整にご協力いただきましてありがとうございました。今日は、玉城町出身の村山龍平翁がつくった朝日新聞社主催の全日本大学駅伝の閉会式からこちらに参ったわけでありまして、今回東洋大学が駒澤大学の 5 連覇を阻んで初優勝ということで、残念ながら駒澤大学には三重県出身者が 2 人いたのですが、東洋大学に三重県出身者はいませんでした、そういう形で非常に盛大な駅伝でありました。

改めて玉城町におかれましては、町政施行 60 周年、心からお祝いを申し上げます。これまで町民の皆さんのご努力、そして歴代の町長や町関係者の皆さんのご努力で今の玉城町があるかと思っております。これからも次の歴史に向けて、ご努力いただきますことを心からお祈り申し上げます。そして、先ほど小倉君の彫刻コンクール金賞受賞がありましたけれども、最近玉城町出身の方が色々な賞を取られたり玉城町がトップになったりというのが結構増えております。この前も玉城町出身の山田里津さんが、2 年に 1 度看護師の方で世界最高の記章であるフローレンス・ナイチンゲール記章の授賞式があってそこで玉城町出身の山田里津さんが表彰されたということで、今回世界で 36 名のうち、日本からは山田さんを含む 2 名というようなことがありましたけれども、町長も授賞式にご出席いただき、日本赤十字社の名誉総裁であります皇后陛下からご受章を賜ったというようなことでありまして、大変名誉なことでもあります。三重県も看護師の不足という問題がありますので、この

山田さんの受章を機に、しっかり看護師確保に向けても努力をしていこうと改めて思った次第であります。

それから、最近何かと話題のふるさと納税については、玉城町がこれまた昨年度も県内市町で 1 億円を超えてトップというようなことでありますので、玉城町の取り組みをより三重県全体に広げていこう、特に南部地域に広げていこうというようなことで、玉城町さんがリーダーとなっていて、10 個の市町と一緒にふるさと納税を働き掛ける。そういう取組も現在していただいていると聞いております。また、今年の 8 月 7 日にはふるさと納税サミットというのを玉城町で開催されて、ふるさと納税を頑張っている市町が全国から来たとも聞いております。そういうような形で非常に様々な特徴的な取組をされておられる玉城町でありますので、今日もこれからますますそういう玉城町さんのこの色々なことで先頭を走っていただくという取組が加速されるような、そんな有意義な時間となりますように、私共もしっかり議論したいと思えますし、これからも連携して頑張りたいと思えますので、どうぞよろしくお願い致します。本日はどうもありがとうございました。

玉城町長

皆さんこんにちは。今日は会場に大勢の皆さんが起こしをいただきましたこと、厚くお礼を申し上げます。鈴木知事にも大変お忙しい中、玉城町の方へ度々おいでをいただきまして厚くお礼を申し上げます。

まずは何と言いましても伊勢志摩サミット招致にご尽力をいただき、そして三重県はもとより日本のこれからの発展のために大変な力を発揮していただいておりますことを心からお礼を申し上げる次第でございます。町も精一杯協力をさせていただきたいと思っておりますし、近く関係者の方はおそらく志摩の方へ行かれるときには、玉城インターで降りられる方が多いのではないかと、こんなふうに思っていますものですから、インターの前にサミット歓迎の看板を建てさせてもらう予定をさせていただいておるわけでございます。

何と言いましても玉城町が誕生 60 年経ちました。5 月 17 日の町政 60 周年の記念式典には知事もご臨席をいただき温かいお祝いのあいさつをいただきまして厚くお礼を申し上げます。

また、ミラノ万博の方へも、ミラノだけで無しに世界中飛び回っておられるわけでありませけれども、私も参加をさせていただきまして、そして三重県の、あるいは日本の食について PR していただいたり、色々な奔走をしていただいたわけでありませけれども、玉城も色々ないい特産品がありますものですから、サミットの後のインバウンド、そのために町の魅力を発信していく工夫をしていかななくてはいけないな、とこんなふうに考えているわけでございます。この機会にもう少し具体的にお礼を申し上げて皆さんにもご理解をいただきたいわけでありませけれども、町は非常に安全な町だという

評価がありますけれども、やはり鬼怒川や常総のような災害があった時に、心配なことも、主要河川の外城田川、そしてその終末が県の二級河川ということになっておりまして以前にも知事との1対1対談の時にお話をさせていただきましたら、早速問屋センターの大野橋の所からの流れをよくしていただきました。そして、今回の長更・井倉からの有田川・相合川、そこももうすでに県の出先の方にさっそく取り組み、準備をしていただいております。本当にありがたく思っています。厚くお礼を申し上げます。

子どもたちのこと、文武両道で学校の先生方も力を入れていただいておりますけれども、玉城中学校の野球は2年連続して今年も全国大会へ行ってくれたということでございました。県の強化校の指定をこの4月にしていただいたというふうなことがあったり、そして何と言いましても村山龍平翁が今年新年には野球殿堂入りされて、甲子園の夏の大会が100回目を迎えた、こういうことであります。この間は大正4年に第1回の大会が開催された大阪の豊中の方へ視察研修をやらせていただきましたが、後ほど知事にお食べいただくのですけれども「白球もなか」というのがございまして、高校野球発祥の地豊中銘菓、それが「白球もなか」になっています。これの包装紙が龍平翁の始球式が包装紙になっています。これを市長さんから直接頂いて、驚いたんです。今日も知事に見ていただいてあまりおいしいもの沢山食べていただくといけませんけれども、ちょっとまた後で召し上がっていただこうかなと、こんなふう用意をさせていただいている次第でございます。

何と言いましても、三重県南部のことに就任早々からとてもお力をいただいております。玉城町がもう少し力が無くても皆と一緒に事務局の担当をさせていただいたり、三重テラスを利用させていただいたり、ふるさと納税のことをさせていただいたり、昨年は熊野古道の色々な取組をさせていただいたり、こんなことをさせていただいておりますけれども、特にそれぞれの地域が一緒になって盛り上げていこうというそういうつながりができているということ、知事のおかげでございます。一言感謝を申し上げて挨拶とさせていただきます。ありがとうございます。

(2) 対談

1 子どもたちの新しい豊かさ協創について

玉城町長

まず1点目を知事よろしく願います。「子どもたちの新しい豊かさ協創について」ということでございますけれども、将来を担う子どもたちにきちっと基礎学力をつけてもらって、健やかに育っていくということ、その地域の将来のために一番重要なことだということとはどなたもご理解いただいていることでありますし、その事に知事は一番力を入れて取り組んでいただいているということで、感謝を申し上げる次第でございます。

玉城町も昨年度から学力向上を目指しまして、学力向上協議会というのを立ち上げました。その会議の中では、全国学力・学習状況調査のような活用力の問題を自ら作って、そしてまずは自主性を育むための授業・指導の仕方をそれぞれが勉強しながら、そして自ら授業を見せ合うということもして、そして先生方の意識改革が少しずつ進んできているという実態・状況でございます。導入事例もご承知いただいておりますように三重県トップで玉城町から開催をさせていただいて、今三重県全体に広がって理解をしていただいているということになっている訳であります。色々な施策ひとつずつ成果を上げつつあるということだと思っておりますけれども、その中で今年は理科が全国学力・学習状況調査の中で対象になってきたわけございまして、なんとかしてその部分に力を入れることが要るなど、理科はご承知の通り色々な実験等もやるというような教科でございますから、その点で指導方法が少し難しいということで、先生方も理科の苦手な方も非常におられるということですから、レゴブロックを活用した教育と同じような形で、例えば県内の企業さん、町内にも大企業さんが立地をしていただいておりますけれども、支援をしていただいて、理科の好きな子ども、そういう子どもをつくっていくことができたらと考えているわけでございます。この間もレゴの授業を参観してまいりました。昨日・昨日でしたか知事は鈴鹿の方へ行かれたということでございましたけれども、非常に子どもたちが楽しく、授業を受けているということを私も見て驚いたわけでありまして。昨年は3年生からでしたけれども、今年は1年生から英語を導入し、この4月から取り組んでいるわけでございます。そんなことで、まずは色々な授業の工夫もしながら、そして地域の皆さん方にもこのことに理解をしていただいて、さらに基礎学力をつけていきたいと考えております。色々取り組んでいただいております。ありがとうございます。また知事の方からもお考えを、是非お聞かせを賜りたいと思います。

知 事

ありがとうございます。本当に今、町長おっしゃっていただいた通り、子どもたちの未来を切り開くために、今、県も色々やっている中で玉城町さんは先頭を走っていただいております。色々な取組をしていただいておりますことに感謝申し上げます。ありがとうございます。

まずは本当に全国学力・学習状況調査につきましては、積極的な取組をしていただいております。2年連続で特に中学校において成果が表れるというような状況でありまして、僕はこの市町別のことを基本的に言ってはいけないことになっておりますけれども、玉城町は本当に県内の中でもトップレベルの伸びを、成果を出しているということだけは申し上げておきたいと思っておりますけれども、本当にそういう形でやっていただいております。

また、土曜授業についても昨年度26年度県内で唯一土曜日の授業を月1回やっていただいております。その玉城町さんが先導的にやっていただいたおかげで、今年度は県

内全市町において、全国的には土曜授業を全市町やれているところの方がまだ少ないのですけれども、玉城町さんがやっていたいて、それが「ああいうふうにやればいいのか」というようなこと等が伝わって、本県では、今年度から全市町でやるようになりました。土曜授業は昔の土曜授業みたいに、昔の土曜授業は本当に普通の半ドンで授業がありましたけれども、今は各市町や学校毎に選べるようになっていて、頻度も選べますし、授業の中身も本当の授業だけではなくて体験活動みたいなもの等でもいいですよ、というようなちょっとバリエーションが広いものになっていますので、やりやすくしている中でありますので、とにかくやってみるということが大事で、アンケートを取らせていただいても、保護者の7割ぐらいの方はそういう取組があつてよかったというふうな評価をしていただいていますので、これからも県内全体改善を進めながら、やっていきたいと思っております。

それから英語教育の関係も、レゴブロック、今日はお見受けするところ先輩の方々もたくさんおられますけれども、人生の先輩の皆さんも、お孫さんとレゴブロックで遊んだり、お子さんと遊んだ方もいると思いますけれどね、世界で一番人気のあるブロックです。世界中の子どもたちから愛されているデンマーク発祥のレゴブロックですけれども、これを使って、子どもたちに楽しみながら英語を学んでもらおうという取組を昨年度から始めていまして、それを津市と鈴鹿市と玉城町、この3つでやっていたいいるんですね。玉城町さんは、しかもさらに今、町長がおっしゃっていただいたように5年生、6年生だけでなく、全学年で英語をやっていたということなのですね。英語の授業でレゴブロックを使ってどんなことをやるかという、例えばブロックの塊が何個かあつて、お題を出すのですね。例えば遷宮についてとか田丸城についてとかそういうお題を出して、それを皆で4人グループとかで話し合つて、このブロックを組み立てて、終わった後にグループ毎に英語で発表し、皆にこれはどういう意味なのかというのを説明するという、プログラムをやるのですね。中には、僕らの世代ぐらいでもそうですけれども、「英語をやる前に国語をやらなきゃダメだろ」という方や、「国語をやらずに英語なんて、そんなの小学校からやったつてダメだ」という人が中にはいらつしゃるのですけれど、実は全然そういうことは無くて、一昨日私も鈴鹿の合川小学校でそのレゴブロックを活用した授業に取り組んでいるところの研究集会に行つてきましたけれども、英語のこういうコミュニケーションは、要は楽しみながらコミュニケーションを図るものなので、実は普段だとちょっと口数が少ないような子どもたちでも、こういう英語になったら、何かコミュニケーション取れるようになったりとか、そもそもの言語能力というのですかね、そういうのが発達するきっかけを作るというのが、この英語というのは意味があるので、国語をやつてから英語というのではなくて、同時にやるということが大事なんですね。コミュニケーション能力を高めて、言語発達能力自体を上げることで国語の吸収力もよくなつてくるということなので、両方が大事で、どつちからということは無いです。その証拠に玉城町さんは英語をやつていただいた上に、全国

学力・学習状況調査、これには国語もありますけれども、全県の中でも素晴らしい成績をおさめていただいていますので、この11月9日には玉城町に県の教育委員の皆さんや教育長がその視察にお伺いすると聞いておりますので、ぜひよろしく願いをいたします。

それから理科でありますけれども、今回全県では全国学力・学習状況調査、これまでと全然ないぐらいいい感じで上がって、やればできるという形になったのですけれども、理科だけは、これ3年に1回なのですけれども、町長ご指摘の通り県全体としてもあまり伸びませんでした。理科の成績は振るわなかったです。確かに授業自体を改善していく、先生たちで授業を研究して、これ国語や数学も算数もそうですけれども、先生たち同士の授業の改善のための研究会みたいなもの、これがやはり基礎にあって、これをどんどん応援していくように私たちもしたいと思いますし、今回の全国学力・学習状況調査の結果を踏まえて、どういうふうにやっていけばいいか分析したいと思います。やはり理科が楽しいと思えるような、先ほど町長もおっしゃっていただいたような取組をどんどんしていきたいと思っております。今だと、この玉城町から3つの小学校に来てもらいましたけれども、県の総合博物館で校外学習を行い、昆虫のことを調べてもらったり、自然のことを調べてもらったり、体験講座やフィールドワークみたいなことを博物館でやらせていただいたり、あとは高校でスーパーサイエンスハイスクールという、理科を重点的に取り組む高校をいくつか指定させていただいていますけれども、その高校生が小中学生向けに理科教室をやってみたり、あるいは皇学館大学の学生が小学校に理科の出前授業をしてくれたり、そういうこともありますので、今、町長おっしゃっていただいたように、我々もしっかり分析をしながら、学校の先生たちの授業の改善のサポートと、児童生徒たち自身が理科を楽しいと思えるような色々な仕掛け、これをぜひ両方積極的に取り組んでいきたいと思っております。

2 若者の流出防止およびUIJターンについて

玉城町長

はい、知事、もうひとつのテーマでございますけれども、どこでもそうなのですが、当たり前ですけれども町で生まれて育った方ができるだけその町に定着してもらうということでなければいけないわけですし、また、自治体は小さな町ではそのために保育所から小学校から中学校から一生懸命学校教育・保育をやっている訳でありますので、せっかくこうして育った若者が出て行ってしまっているというのが現実でありますから、なんとか若者の流出を食い止めるということが、これはもう当たり前でありますけれども、県内出身の大学生に対する色々なアンケート調査・意向調査、これを三重県の方で何とかUIJターンのきっかけづくりになるようなそんな取組をしていただくとうれしいなと思うわけでありまして。今申し上げたとおりでありますけれども、やはり

就職・進学でその時に県外に出て行く状況でありますけれども、何故そうなのかということの動機とか動向なり、あるいは将来の考えというものを分析して、そして UIJ ターンに取り組んでいくということが要るなと思っておりますから、ぜひそういったところで定住していただいて、そして地域の将来のために活躍してくれる、そういうつながりを持っていくことが要ると常々思っておりますから、ぜひそういったところで知事のお考えもお聞かせをいただけたらと思っております。以上です。

知 事

はい、ありがとうございます。せっかくですので、今日皆さん来ていただいておりますので、三重県の若者の県外に出て行ったりする、そういう数字をご紹介していきたいと思っております。

平成 23 年度～26 年度、この間三重県の高校を卒業して大学に進学した人、これの内、県内の大学に進学した人は 19.9%、県外の大学に行った人は 80.1%、そういう状況であります。ちなみに、80.1%の中では、愛知県 38.4%、関西 2 府 4 県 21.3%、関東 1 都 3 県 9.8%、その他 10.6%、そういうことで、高校を卒業して大学へ行く人の 8 割が県外に出て行くという大変厳しい状況です。それから、同じ平成 23 年度～26 年度で高校を卒業して就職する人はさっきの逆で、県外の就職が 11.6%、なので県内に就職する人が引き算すると 88.4%ですね。だから高校を卒業して就職する人は 9 割方県内に就職してくれるけれど、大学に行く人は 8 割方県外に行ってしまうと。大変厳しい状況です。それから、三重大学で去年 3 月の卒業生の調査によると、三重大学の卒業生のうち、三重県出身者が 40.7%、4 割の子が三重県出身者ですがけれども、三重大学の卒業生で三重県に就職した人は 33.4%ということなので、4 割三重県出身の子が三重大学にいるのに、3 割の人しか県内に就職していないので、三重の大学から就職するときにも、さっきの 40 と 30 の差の分だけ県外に行ってしまうということなので、この大学の時と働く時、この 2 回をいかに三重県に魅力を感じてもらうか、あるいは U ターン I ターン J ターンでもう 1 回戻ってきてもらうか、というのをやるのが、先ほど町長がおっしゃっていただいたように大変重要な取組であります。

行っても帰りたいかどうかというようなことについては、例えば民間の企業の調査によると、県外に進学した、大学で県外に行っちゃった三重県出身者のうち地元での就職を希望する学生、県外の大学に行った三重県出身の子が三重県に戻って就職をしたいと希望する割合は 52.2%ということなんですね。これでも、行ってしまっても「希望する」というのが 28.3%、「どちらかという希望する」というのが 23.9%ですから、根っから希望してくれる人は 28.3%が三重県出身で県外の大学に行ったけど絶対戻りたいという三重県の子は 28.3%という、そういう状況なんですね。なので、こういう形の働きかけをしっかりと、あるいは情報提供というのが大事だと思っておりますので、学生の人たちが地元の企業の情報をどうやって入手するかという、インターネットが多い

ので、インターネットに働きたいと思うような企業をしっかりと紹介していくことで、今年度から特に中小企業について、三重県ではそういう県外に行った人たちのための情報提供に力を入れていくようにしています。

それから併せて、ポイントとしましてはそういう企業の情報をインターネットにしっかりと載せるということと、後は三重県出身者が多い大学等に働きかけて、三重県の地元の企業の情報をより在学生に伝えてもらう取組をこれからやっていきたいと思っていますので、特に愛知県や関西が多いですから、関西圏の大学等を中心にその大学との協定を締結したりして、その三重県出身者の子達への、三重県の企業に関する情報提供に協力をしてもらう。そういうことを今、地道ですけれどもやっていこうと考えています。

玉城町長

ありがとうございます。つい 1 週間前ぐらいでございましたけれども、子ども議会というのをやりまして、町内の 4 校小学校あるんです、子どもたちそれぞれから 3~4 人ぐらい集まっていたいて、町の 10 年 20 年先、どんな町を自分たちが望むのかということを行いましたら、色々な人と人との助け合いがあるような町、これが大事だなと。あるいは玉城町の豊かな自然を残してほしいなという貴重なご意見やそういう具体的な色々な提案もありまして、そうしたら「この町に皆さん将来残りたいですか」と聞いたら全員が「残りたい」と挙手もしてくれまして、そういう非常に若い人たちが今体験学習も先ほどの色々な基礎学力のことで一生懸命学業に取り組んでいただいているものですから、いい形で町あるいは自分のこの故郷について考えてくれているなと思っていますものですから、何とか後につながるようなそういう施策を高校あるいは大学あるいは町内の企業の皆さん方とも一緒に連携をして取り組んでいくことが大事と今思っています。またよろしく願いしたいと思います。

知事

そうですね、さっき私が申し上げました通り、大学に行くのに 8 割から外に行ってしまうと、ちなみに大学の定員が三重県内どれぐらいかという、大体毎年三重県の高校生で大学に進学する子が 8 千人ぐらいいるのですけれども、三重県の大学の定員を全部足しても 3 千人しかないんですね。8 千人大学に行く高校生がいるのに大学の定員が 3 千しかないんですね。8 千分の 3 千、これは大学収容力というのですけれど、平成 26 年度ですと、全国で 45 番目ぐらいなんですね。非常に低いです。「じゃあ知事さん大学をつくったらいいじゃないか」と言われるかもしれないのですけれど、これから人口が減少して子どもたちが減っていく中で、大学をつくって経営が成り立っていくかということがありますから、私たちは、ひとつは今ある大学に、今の三重県の高校

生たちが行きたいと思うような、今の三重県の大学を魅力的にしていくということがまず先決だと思って、大学の皆さんとそんなお話をさせていただいていますし、実はまだまだ三重県内の大学の良さ等、そういうのが知られていない部分がありますので、そういうのを伝えていく努力、これですね。高校 2 年生にこの前アンケートを取りましたが、「自分が進路を決める時に誰の言うことを聞きますか」というのを聞いたところ、1 番目がお母さん、2 番目が先生、大分離れてお父さんなのですね。なので、お母さんとかにも三重県内の大学が、どんないいことをやっているのかということを知ってもらう、そういう情報提供をこれからやっていかななくてはダメだなということで、今大学の皆さんとお話をさせていただいております。仮に大学は三重県内に行けなくてもまた戻ってきたいと思ってもらうということが大事ですので、そのためにはひとつは働く場がちゃんとあるということだと思います。そういう意味では玉城町は大きな企業もたくさんありますし、中小企業で頑張っている特徴あるところもあるので、玉城町はそういう受け皿としてのポテンシャルが、可能性がある場所だと思います。働く場があるというのは大事なことだと思います。そういう働く場があるのだということをしっかりと説明をしていく、こういう魅力的な企業や働く場があるよということを伝えていくということが大事だと思っていますので、後はもちろん働く場を作っていくということもね、大事ですから。そういうことも県として地元の皆さんと一緒にやっていきたいと思っています。

それからもうひとつはさっきの高校生のアンケートでは、8 割の子が最終的には何らかの形で地元に戻りたいと言っているのですが、じゃあ「何でそう思うのですか」と聞いたら「理由は無いけど愛着があるから」という答え方をしてくれているんですね。「何で戻りたいか」という理由が無いけど愛着があるから」ということは、やはり小学校や中学校の時に地域に対する愛着を感じてもらった郷土教育とかふるさと教育みたいなのをしっかりやっていくということが大事ですので、正に玉城町さんも一生懸命取り組んでいただいておりますし、そういうことが大事だと思います。そういう形のこと、1 個ホームランを打ってみたいなのは難しいと思いますけれども、ヒットを積み重ねて子どもたちや若者が U ターン I ターン J ターンで戻ってきけるようなそんな場づくりをしていかなければダメだなと思っています。

玉城町長

ありがとうございます。知事におっしゃっていただいたように、やはりこの三重県の広報誌にでも、あるいは 10 月号で見せていただきましたけれども、やはり学校や家庭や地域との連携が大事なのだということも見せていただきました。学者の先生がおっしゃって見えたので印象に残っているのが、地域のつながりの豊かさが子どもたちの学力を育むんだということを研究なさって見える方がございましたものですから。やはりそういうことを町として今の小倉君の立派な作品もご覧いただきましたけれども、玉

城の伝統である文武両道の町づくりという教育はこれからもずっと大事にしていきたいなと思っていますし、もうひとつ協創ということ色々掲げていただきまして、人と人とのつながりをもう一度大事にしていくことが要るなど、新しい県民力ビジョンの中でも協創ということを掲げていただいておりますけれども、玉城の先人の皆さん方の力のおかげで今日があるわけでございますけれども、やはり最近特に 5~6 年ぐらいの状況を見ていますと、かつてあったような地域のつながりがだんだんなくなってきている部分もございますものですから、地域の皆さん方同士の互助というか、助け合いというか、そういうことをもう少し何とか工夫をしていくことがこれから大事なことはないかなと思っています。また色々な面でご指導をいただきたいなと思っています。若い人たちや、先ほど申し上げました子どもたちが真剣に人と人との助け合いが大事なな、こういう意見を交換してくれまして、頑張ってくれているといういい傾向があるなど、そういう部分をずっと伸ばしていくことが要るなど。サミット誘致いただきましたものから、次の世代に今の千載一遇のサミットを次の世代につないでいくことも町をあげて頑張らせていただきたいなと思っています。

知 事

そうですね、おっしゃるとおり先ほど僕は働く場の話をしましたけれど、例えばさっきの小倉君のような芸術や文化に秀でた人材もこの地域で活躍できるような仕組みとこのを作っていくかといけないと思いますし、うちの三重県が昨年度作った新しいみえの文化振興方針では、三重県の文化を振興していくために、県が取り組む一番大事なことは何ですかというので、人材育成というのを私たち掲げましたので、ああいう小倉君や小倉君に続く人材を輩出していくために、例えばプロのアーティストの人たちを学校に派遣してそこで文化に触れてもらって、「俺はこういう道で生きていくぞ」、そういうふうにしてもらうような取組等もしっかりやっていきたいと思っていますし、後はスポーツ選手なんかもね、アスリートをやりながら、働きながらでもいいですけども活躍していけるようなことも、やっていかないとはいけませんので、今年度から特に平成 33 年、2021 年に国体と障害者スポーツ大会もありますので、働きながらアスリートをやれるようなそういう働く場とのマッチングも今年度からスポーツの人材について今取り組んでいるところであります。

それから先ほど町長からは学力のこと等についても、学校・家庭・地域の連携が大事だとおっしゃっていただきました。トータルすると子どもたちが学校にいる時間というのは、子どもたちの人生の内の 2 割ぐらいなんですよね。8 割ぐらいが学校の外にいますので、どう考えても家庭や地域というもので子どもたちを育てていくというのが大事なことだと思います。例えば、三重県はこの 8 月にあった全国学力・学習状況調査結果の中で児童生徒に聞いた質問の中では、全国と比べてテレビを見ている時間とかスマートフォンを触っている時間とか、そういうのが非常に多いと。全国平均よりも

高いと。大分改善したのですけれども、家庭での時間の過ごし方というのに課題があると。そういうことが三重県全体として出ていますので、ぜひそういう部分で、単純に「そんなテレビばかり見ないで勉強しなさい」じゃなくて、教育経済学の中では、子どもたちの勉強に関する褒め方として、アウトプット・結果、「点数良かったね」と褒める褒め方よりも、「頑張って 2 時間コレとコレとアレをやりきったね」というプロセス、途中を褒めてあげる方が学習意欲の向上に効果があるという研究結果が出ています。なので、もしお父さんお母さんおじいちゃんおばあちゃんが褒めていただくときは、点数、「100 点とってよかったね」じゃなくて「あんた今回のためにこうこうこうで毎日こうやっていたもんな、よく頑張ったな」というプロセスを褒めてあげることをぜひやってあげてほしい。なので、勉強しなさいという言い方よりもプロセスを、頑張ることを伝えてあげるといようなこと等を言ってあげると学習意欲も高まりますし、結果として結果も上がると、そういう研究成果も出ていますので、ぜひ点数を褒めずにプロセスを褒めるというようにやっていきたいと。だから、スポーツもそうだと思うし芸術もそうだと思うのですけれども、結果を褒めてあげるのはもちろんいいのですけれども、結果だけを褒めるのではなくて、途中、こう頑張ったということを見てあげてそれを褒めてあげるというのを是非してあげたいですね。

玉城町長

来年になるんです、知事のすごいやんかトークでサポーターさくらさんということで、この活動はすごく、厚労省の方でもずいぶん評価をいただいている、ついこの間は集いの場を、「協(かなう)」という名前を付けていただいているんですけれども、高齢者の皆さん、あるいは介護で苦勞されてみえる方々が気楽に相談できる、そういうふうな場所を作ってくださいましてね、正に地域での助け合い・支え合い、そういうふうな活動の実践をしていただいておりますもので、そんなことも来年にはぜひ知事にも意見交換をしていただくとありがたいなと。今日はその方々、例の赤いユニフォームを着ていただいている方。

サポーターさくら 谷口さん

サポーターさくらの谷口と申します。今日は知事さんとの対談で、こんな素敵な機会を頂いたこと、本当にサポーター一同感謝しています。ありがとうございます。

私達は自主活動グループで、8 年前から認知症サポーター講座を経てキャラバン・メイトの資格等を持って、町内外で講師役を務めて、それを経費に充てて活動している本当に純粋なボランティア団体にも入らないのですけれども、自主活動グループさせてもらっているサポーターさくらなのですけれども、町の花がさくらなのです、それ

からサポーターさくらというグループ名をつけさせていただきました。活動内容は、各介護施設の支援から始まって、認知症の方々と密に繋がりを取ってそういう絆を結んで、少しでも学習させていただいて、ある在宅の方の支援とか、町の方の事業に応援をさせていただくべく、健(脚)健(脳)教室というので、毎週金曜日に、午前中そちらの方のお手伝いもさせていただいたりしています。今年度、27年度のサポーターさくらの活動目標といたしまして、今町長さん知事さんがおっしゃったように、地域づくり、絆を作ろうということで、居場所づくりというので、地域ケア会議、医療・介護各ボランティアさん、そして民生委員さんの各種団体の皆さんが集まって50名ぐらいみえるのですけれども、その中で居場所を作ろうということで、プロジェクトチーム「協(かなう)」というチームが発足しました。春から空家探しをしまして、この暑い夏7月8月9月ですか、居場所づくりがやっとオープンできました。10月17日にオープンセレモニーで本当にみんなの夢がかなって、本当に町民の皆さんが一丸となって、そういう場所づくりが本当にスタートいたしました。1回2回とオープンさせてもらった後なのですけれども、それまでが経緯というか色々なことがあったのですけれども、やはり町政からちょっと予算もいただけるということで、すごく皆喜んでますます張り切っている状態なのですけれども、ちょっと小嶋さんの方からその経緯をお話しさせていただいてもいいですか？ すいません。

サポーターさくら 小嶋さん

サポーターさくらの小嶋でございます。町長さんにこういう話をさせていただくのは本当にうれしいです。「協(かなう)」という名前が玉城の集う場所「協(かなう)」ということで名前を付けたのですけれども、かなうというのか協力の協で力が3つ、ということで10月の初めにオープンしました。町の方から絶大なる支援をいただきました。この場でお礼を申し上げたいと思います。

開設後、2回開場したのですけれども、20数名の独居の老人の方、認知の方、そういう方が見えまして、本当にうれしく思っております。私も会場の最終の閉会の言葉の時に言ったのですけれども、協力の協の中には3つの力があります。皆さんの最後の方、4つ目の力を皆さんにいただいて、この場を盛り上げていって、助け合い愛し合うようにさくらサポーター、町民の皆さま、またはボランティアの皆様と協力して盛り上げていきたいと思っております。こういう考えであります。よろしく申し上げます。

玉城町長

ありがとうございました。知事、また来年度よろしく申し上げます。

知事

はい、今日の東京新聞だったと思いますけれど、中日新聞もそうですけど、認知症

の集中支援チームという、専門職種の皆さんが職種を超えてチームを作るという制度があるのですけれども、その設置している市区町村の割合が50数%、正確な数字は忘れちゃったけれども、三重県が全国1位だったんですね。30.6%ぐらいが全国平均だったと思いますが、三重県がその認知症集中支援チームの設置をしている、三重県で言うと市町の割合が全国1番高かった、という新聞記事も出ていました。それはやはり皆さんの活動の様に、専門職種だけでは、日頃の日常のケアというのは当然できませんから、皆さんのようなサポーターの皆さんがどんどん広がっていくことが専門の皆さんも活躍しやすくなるでしょうし、この連携で高齢者の皆さんがそのご家族の見守りがしやすくなると思うのですね。うちの祖母もそうですね、あれは4年前ぐらいに亡くなりましたけれども、認知症だったので、非常にうちの母親でも苦労した覚えがありますから、皆さんのような人材は本当に高齢者の方ご自身にとってもそうだし、そのご家族の皆さんにとっても非常に安心できる存在だと思います。介護全般の人材が不足しているというふうに言われていますけれども、今年度から私、特に、2期目の選挙出る時もずっと言い続けてきたのですけれども、専門職種の人だけじゃなくて、専門職種の人でなくてもできることってたくさんあるはずなんですよね。認知症の事だけではなく例えば施設でも、例えばベッドメイキングとか掃除とかあるいは施設の草刈りとか、そういうのは別に介護福祉士の資格を持ってない人でもできるはずなので、多くの人たちを巻き込んで、色々な意図で連携して、介護の人材が足りないのだったらそれをカバーしていく仕掛けにしていけないといけないので、そういう意味では認知症の分野において皆さんが先導的に取り組んでいただいていることはありがたいことですし、県のモデルにもなっていると思いますからまた今度すごいやんかトークで、詳しく皆さんと議論させていただければと思いますので、よろしくお願ひしたいと思ひます。

(3) 閉会あいさつ

知 事

辻村町長どうもありがとうございました。また玉城町の皆さんありがとうございました。そして、傍聴の皆さんも日曜日にもかかわらず、また今から晩御飯の準備とかもしなければならない、こんな出にくい時間に大変申し訳ないことにありがとうございました。盛りだくさんのお話でありましたけれども、やはりこれから地域が長く発展していく豊かに発展していくための、子供たちの事であるとか、あるいは人口減少のことであるとか、最後は高齢者の皆さんにも輝き続けていただくためにもどうしていくのか、非常に重要な地方創生の時代の中で議論をさせていただきました。県としましてもしっかりと連携して取り組んでいきたいと思ひますし、玉城町さんにおかれましては、いくつ

もそういう県の中をリードするような取組をしていただいておりますので、これからもそういう特徴をどんどん磨き上げていただいて、町長を先頭に皆さんで頑張っていただければと思いますので、何卒よろしく願いしたいと思います。今日はどうもありがとうございました。